

2 0 2 5 年 度

総 合 型 選 抜 Ⅲ ア ジ ア 事 情 探 究 型

適 性 検 査

次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

今年（昭和三十九年）は辰年だということで、カレンダーや雑誌の（a）サシエなどで到るところに、よく龍の画をみかける。ところでその指先の爪の数をしらべてみると、あるものは二つ、あるものは三つ、またあるものは四つと、実にさまざまである。（1）いったい龍の爪は何本あるのが本当だろうか。

龍はそもそも想像上の動物だから、爪の数などは何本でもかまわない。そうやってしまえば至極簡単で、それでも通るのである。実際に中国古代の（b）ヘキガや器物などに現われる龍の爪は、三本だったり四本だったりして別に一定の規定はなかった。ところが中国では宋以後、近世的な天子独裁政治が始まると、だんだん龍の紋様は天子に独占されるようになり、それが龍の形状の上にも影響を及ぼすようになってきたので、そう簡単にはすまされない、話が半分やこしくなるのである。

中国では昔から龍は人君の象徴とされた。天子の顔を龍顔といい、天子の車を龍駕といい、天子の着物を袞龍こんりゅうの衣という。袞龍の衣には実際に龍の紋様が現われていたのであろう。しかし（2）唐代までは、龍の紋様を天子だけが独占するといふことはまだなかったようである。

ところが宋代になって、天子の独裁権力が確立されると、人民は勝手に龍の紋様を用いてはならぬという禁令が初めて発布されたが、それは北宋末の哲宗皇帝の元符年間（一〇九八―一一〇〇年）のことだという。もともと臣下の中でも大臣等には特別に龍の紋様が許されるが、その龍は降り龍であり、昇り龍の紋様は天子以外は何人も用いることを許されない。そして天子の龍は二角五爪、すなわち二本の角と、五本の爪という形に定まったのも、この前後からであるらしい。

しかし龍のように古くから民間にも親しまれてきた紋様を、一切人民に用いさせないという禁令を厳重に実施しようとする、つい人民との間につまらない所で摩擦が起こる。おそらく実際には政府の方でも手心を加えて、二角五爪の龍でなけ

ればそのまま見逃していたのであろう。次の元代になると法令に明文をもって、民間に使用を禁止する龍とは、二角五爪の龍だけのことだと、はっきり規定するようになった。

このように中国の政治は、表面からだけ見ると非常に独裁的な専制政治だと思われやすいが、その実施について見ると、随分と幅を広く、ゆとりをもたせてやっている。これは行き過ぎたな、と思えば政府の面目を失わないような方法で手直しをすることを考える。それには法律の新解釈を加えて抜け道を作ってやるのである。清朝に至って、龍の解釈はいよいよ狭いものになった。龍とは五本爪の龍のことだけで、それ以外は龍の形をしていても龍ではない、それは蟒^{うわばみ}だ、というのである。この解釈に従うと、日本でお寺の(c) テンジヨウや、掛物にかかっている龍は、ほとんどすべて下のものばかりであるから、龍に似て実は龍でなく、龍に似た蟒だということになる。

中国で天子の用いる龍の形状が五本爪ということにきまると、民間で龍の形を描く時には、いきおい四本爪以下のものになる。おそらくそれぞれの地位に応じて爪の数を加減し、下へ行くほど数を少なくして、三本爪や二本爪の龍を描いていたのであろう。中国に近く、従って(3) 中国思想に染まることの深かった朝鮮では、何事によらず中国より一段低い所で遠慮していねばならなかったので、国王の用いる龍の形も四本ときまり、民間では三本爪以下しか許されなかったようである。

そこで中国や朝鮮から影響を受けて龍の形を学んだ日本においては、一般的に爪の数がすこぶる少なく描かれている。日本には別に(d) メントウな禁令などなかったようであるから、何本の爪を描いてもよさそうなものだが、中国朝鮮の民間に行なわれる龍の形を見て、これが本当の龍の形だと思ひこんでしまったのであろう。私の知っている限りにおいては、豊臣秀吉が明の(4) 万曆帝からもらった、日本国王に封ずるぞという詔勅の巻物の表装の龍が五本爪であるが、これは明の天子の内府で製造されたに違いないから五本爪なのは当然である。その外には五本爪の龍はどうも見当らない。清朝時代の用語でいえば、みな蟒^{うわばみ}に過ぎぬのである。

もちろん、爪の数は絵の出来不出来とは全く別物である。大将の肖像がいつも兵卒の肖像よりすぐれているとはいえぬと同様、五本爪にかいたからといって(e)ケツサクになるとは限らない。要するに龍の絵は龍らしく出来ていればそれでいいのである。また龍の爪は何本かと聞かれた答に、何本でもいい、といっても実際にそれで済ませるわけであるが、それは一般の場合である。それでは済まされぬことの出てくるのが、我々、中国の歴史を研究しているものの立場である。これは何も龍だけに限ったことではない。中国の歴史を研究するには、あらゆる方面にこのような下らぬことにも気をくばらなければならぬ。自然科学の場合のように、単刀直入、まっしぐらに本質的な問題に向って取り組むというわけにはいかない。いろいろな煩わしい二義的な問題を片付けたあと、豊富な常識を身につけてから本当の問題に取りかからねばならない。この手続きを怠ると、つまらない所でボロを出すおそれがある。だから人間も四十歳ぐらいにならぬと、一人前の研究者になれぬなどともいわれる。いやそれどころではない、還暦をすぎた我々でも、時々馬脚を現わして恥じ入ることがよくある。

ところでそのこと自身は一見してつまらぬことのようにありながら、それを中国文化全体の中で眺めた時に、案外つまらなくはないことがその中に存在することもある。いまの龍の爪の問題でも、想像上の動物である龍の爪が何本あると、歴史の大勢には関係ないことだが、しかしそういう龍の思想の変遷の中に、大きな中国社会の動きと特色とが看取されるのである。(5)だからこそ、中国研究は面白くてやめられないわけである。

問 1 波線部 (a) ～ (e) の片仮名を漢字にしなさい。

(配点 10 点)

(a) サシエ

(b) ヘキガ

(c) テンジョウ

(d) メンドウ

(e) ケツサク

問 2 傍線部 (1) 「いったい龍の爪は何本あるのが本当だろうか」とあるが、天子（皇帝）が用いる龍の紋様に関する規定は

時代ごとに変化するが、その変遷について百二十字以内で説明しなさい。

(配点 8 点)

110					
120					

問3 傍線部(2)「唐代」とあるが、唐の前半期に活躍した詩人で、「春曉」の作者として知られる人物の名前を漢字で答えなさい。
(配点6点)



問4 本文の内容を踏まえて、空欄Aに入る言葉として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。(配点4点)

- ① 五本爪
- ② 四本爪
- ③ 二本角
- ④ 一本角



問 5 傍線部 (3) 「中国思想」とあるが、儒家の始祖とされる孔子の言行録をまとめた書物の名称を漢字で答えなさい。

(配点 6 点)

問 6 傍線部 (4) 「万曆帝」とあるが、彼の治世において活動したイエズス会の宣教師で、「坤輿万国全図」を作成したこと
で知られる人物の名前をカタカナもしくは漢字で答えなさい。

(配点 6 点)

問
7

傍線部(5)「だからこそ、中国研究は面白くてやめられないわけである」とあるが、筆者は龍の爪に関する事例のどのような点に中国社会的特色を見出しているか、本文の内容に即して百二十字以内で説明しなさい。

(配点
10点)

110					
120					

二

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

中国の内陸部に位置する⁽¹⁾湖南省は、近代において数々の革命家を輩出したことで知られる。とりわけ、省都の長沙から南西に少し行った湘潭^{しょうたん}、寧郷^{ねいきやう}のあたりは、まさに革命家の名産地で、人民共和国の大^(イ)元勳^{りゆうしん}として知られる毛沢東、劉少奇^{りゅうしやうき}、彭徳懷^{ほうとくかい}は、いずれもこの地の出身である。この三人が互いを知るようになるのは共産党に入ってからだが、生家は互いに三〇～五〇キロほどしか離れていない。それゆえ、この一帯は「偉人故里^{いじんのかさと}」、またその三カ所を結ぶルートは、^(a)ゾク^{ぞく}に紅色之旅^{ごうせき}（革命史跡巡り）の「黄金の三角^{ごうでん}」と称され、革命偉人の生家巡りツアー客で連日にぎわっている。

そのひとつ、寧郷の花明楼^{かめいろう}というところは、時の国家主席でありながら、文化大革命で迫害され世を去った悲劇の指導者・劉少奇のふるさとである。生家のすぐ近くにある記念館には、名誉回復がなったあとに、劉夫人の王光美^{おうこうび}が寄贈した品々が^(b)チンレッツ^{ちんれつ}してあるが、その中に国家主席だったかれの公邸寢室を復元したコーナーがある。一九六〇年代初頭に使っていたというこの寢室、読者は奇妙な印象を持つはずである。^(c)フトン^{ふとん}が敷いてあるのではない。ベッドに脚がないのだ。脚が切っており、マットレスが床にほぼ直接に置いてある。劉少奇は、なぜこんな変わったベッドを使っていたのだろう。展示室の説明はこうである。

劉少奇同志は長年の過労が原因で、重度の不眠症を患っており、毎夜睡眠薬を服用していた。ところがある晩、朦朧^{もうろう}してベッドから転げ落ちてしまったことがあり、以後落ちてもケガをしないようベッドの脚を切り、マットを床に敷いて寝るようにしたのである。

記念館は、かれが国のため民衆のため、寢食を忘れて働いたことを讃えて、このような展示説明をつけたのだろう。当時の睡眠薬は、飲んでから寢床にたどり着くまでに、地面に倒れてしまうと云われるほど効きが強かったらしいが、そこまで働かなければならなかったのか。参観者は一様に劉の勤勉さに思いをいたすのである。(2)だが、この脚を切ったベッドの話は、人民共和国の政治を考える者に、色々な示唆を与える。

実は、睡眠薬を常用していたのは、劉少奇だけではない。それどころか、当時の中共中央の指導者の多くは睡眠薬を使っていた。周恩来しかり、鄧小平またしかりである。その一つの理由は、重要な会議が夜中に行われ、不規則な生活を強いられたことである。当時、党の中枢である中央政治局の会議は、しばしば深夜から日付を跨いで開催され、決定された指示文書が未明の二時、三時に発出されることもざらだった。なぜ夜中に会議をするのか。長年夜型の生活をしてきた毛沢東が、人民共和国の国家指導者となったあとも、その習慣を改めなかったからである。かく言う毛自身も睡眠薬を手放せなかった。もちろん、毛にしても、昼間に通常の公務や会見などが挟まることもあるし、ほかの指導者ならむしろ昼間の仕事为主である。かくて、毛もふくめ、共産党の指導者たちは、(a)軒並み睡眠薬に頼らざるを得なかったのである。だが、その薬も、毛以外の者は、日付が変わるまでは飲めなかったという。飲んだあとで毛から緊急招集の電話が来た場合、起きようにも起きられず、何とか毛のもとに駆けつけても、会議で爆睡するのは目に見えているからである。劉少奇のベッドが床に置いてあるのは、こうした諸々のことの結果にほかならない。当時の共産党における毛の意向の重みは、政策決定のみならず、こんな生活時間にまで及んでいたわけである。

【 中 略 】

一方、劉少奇が勤勉だったというのも、決して(イ)誇張ではない。これまた劉のみならず、共産党の指導者たちは、毛にせよ周恩来にせよ、おしなべてみな勤勉であった。国の舵取りたる者、勤勉なのは当たり前だという声もあるが、かれらと

て人間である。自分の判断や決定によって、多くの民が影響を受け、ヘタをすれば多くの人民の命が損なわれるかもしれないというプレッシャーがないはずがない。現に劉が国家主席に就任した前後には、毛沢東による無謀な経済政策（大躍進）の失敗によって、数千万人が餓死するというおぞましい事態が起きていた。「民を苦しめるようなことがあつてはならない」という意識は、そもそも伝統的に中国の為政者が強く抱いたものであったが、共産党はより (d) センメイに「民衆」のための政治を行うことを標榜しているのである。中国の支配者としてののはかりしれないほどの心理的重圧と、失政は許されないという強迫観念が、劉少奇には終始まとわり続けたであろう。

だが、そうした支配は共産党自身が当然のこととして選んだもの、一党独裁による政治を是とし、他の政治勢力を有名無実にしてしまった以上、その責任は誰にも (二) 転嫁できないし、代わってもらおうにも代わりはいないのである。共産党指導者が独裁と引き替えに背負わなければならなかったものの、極端に言えば、それが劉少奇をしてベッドの脚を切るに至らしめたもののもう一つの正体ではなかったか。

国政において政権交代を可能にする仕組みを持たず、ごく少数の指導者が政治の号令をかけるという当時のスタイルは、今日でも何ら変わっていない。してみれば、劉少奇が感じたような逃れられないプレッシャーの中に、今の習近平がいることも間違いあるまい。もちろん、貧困と飢餓を抱えていた時代に比べれば、中国ははるかに豊かになっており、世界第二の経済力を背景に、グローバルな経済開発構想「A」を掲げ、内には「中国の夢」を語る時代である。だが、だからといって、習のプレッシャーが前の世代の指導者たちよりもそれだけ軽減されるかと問えば、そうは言えまい。新型コロナウイルスの拡大が世界に未曾有の (ホ) 厄災をもたらし、その責任の所在を問われることなどは、鎖国に近かった毛沢東時代にはなかったことで、これなどは (三) 国際化した中国ならではの責任の重みである。

このように、代役のいない、あるいはそもそも代役の存在を認めないように舞台を設計し、それに沿って演出をし、さら

には主役を演じているのも自分たちである以上、劉少奇にせよ、習近平にせよ、かれらは権力の座にある限り、そのプレッシャーが自らにのしかかるのを覚悟せねばならない。さらに、その重圧は何か特定の目標を達成すれば、そこから解放されるという(e)ヒソウ的なものでなく、一度背負ったが最後、永遠に下ろすことのできない重荷となることに気づくであろう。

(石川禎浩『中国共産党、その百年』による)

問 1 波線部 (a) ～ (e) の片仮名を漢字にしてください。

(配点 10 点)

(a)
ゾク

(b)
チンレツ

(c)
フトン

(d)
センメイ

(e)
ヒソウ

問2 波線部(イ)～(ホ)の漢字を平仮名にしなさい。

(配点10点)

(イ) 元勲

(ロ) 軒並み

み

(ハ) 誇張

(ニ) 転嫁

(ホ) 厄災

問3 傍線部(1)「湖南省」とあるが、毛沢東らと同じく湖南省出身の清代末期の政治家で、一八五〇～六〇年代にかけて湘軍を率いて太平天国などの戦いで活躍した人物の名前を漢字で答えなさい。(配点6点)

問4 空欄Aには、二〇一七年に中国共産党の規約に盛り込まれた、グローバルな経済開発構想の略称が入る。その略称を漢字で答えなさい。(配点6点)

傍線部(2) 「だが、この脚を切ったベッドの話は、人民共和国の政治を考える者に、色々な示唆を与える」とあるが、

(配点 14 点)

[illegible][illegible]

問 6

傍線部(3)「国際化した中国」とあるが、二〇〇八年に国際社会からの関心を集めた中国の出来事としてあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

(配点 4 点)

- ① 四川大地震
- ② 上海国際博覧会
- ③ 北京オリンピック
- ④ 広州世界卓球選手権団体戦

